

むくのきだより 1月号



令和7年1月8日 港区立赤羽幼稚園 園長 中村 美奈子

新年を迎えて

園長 中村 美奈子

年の初め、東京は快晴でした。正月の澄んだ青空を見ていると、子供の頃の凧揚げを思い出しました。赤羽幼稚園の子供たちも小さな凧を作って遊んでいましたが、昔は、大きな凧を公園や河原でたくさんの子供・大人が揚げていたように思います。私は、親戚の家に行き、いとこたちと一緒に凧揚げをしました。いとこに凧を持ってもらい、糸をほどよく伸ばします。私が合図で走り出し、糸が地面から離れると、いとこが凧を放ちます。走っても、風をとらえられないと、凧はすぐに地面に落ちてしまいます。しかし、風をつかむと、走らずとも凧はふわりと舞い上がります。そして、糸をくいっと引くごとに高く高く空に昇っていき、気持ちのよいものでした。いつから凧は、子供の遊びとなったのでしょうか。

凧は、二千年以上前から気象観測や軍事利用などを目的として、ギリシャや漢(現在の中国)で揚げられていたそうです。日本には、平安時代に中国大陸から伝わり、江戸時代になり庶民に広がったそうです。歌川広重や葛飾北斎などの浮世絵にも凧が描かれています。様々な形があり、呼び方も関西では「いか」や「いかのぼり」、長崎では「はた」などと様々です。また、大凧を揚げたり、糸を切り合う凧合戦を行ったりし、幸福祈願や魔除け、年占いをする地方もあります。正月だけでなく端午の節句などに子供の成長を願って揚げられるものもあります。凧が空高く勢いよく泳ぐ様子を、子供が元気よく育つ姿に重ねたのでしょう。子供が健やかに成長してほしいと願う気持ちは、いつの時代も同じだと思います。

江戸後期に多くの俳句を残した小林一茶に、凧を詠んだ句があります。

たこだ
凧抱いたなりですやすや寝たりけり

昼間たくさん遊んだ凧を、夜眠っている間も大切に抱えている我が子を見て詠んだ句です。我が子のことを愛しく思う気持ちが伝わってきます。赤羽幼稚園の子供たちも元気に遊び、健やかに育ってほしいと願います。

保護者の皆様、地域の皆様には、旧年中、本園の活動に温かいご理解とご支援をいただき、ありがとうございました。本年も、教職員一同、心を合わせ、子供たちの健やかな成長のために、力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

